

完了後の評価個表

| | |
|------|---|
| 整理番号 | 1 |
|------|---|

| | | | |
|---------|-------------------------------|---------|-------------------|
| 事業名 | 森林環境保全整備事業 | 都道府県 | 北海道 |
| 地域（地区）名 | 釧路根室 <small>くしろねむろ</small> | 事業実施主体 | 道、市町村、森林組合、森林所有者等 |
| 関係市町村 | 釧路市ほか12市町村 <small>くしろ</small> | 管理主体 | 道、市町村、森林組合、森林所有者等 |
| 事業実施期間 | H23年度～H28年度（6年間） | 完了後経過年数 | 5年 |

| | |
|-----------------|--|
| <p>事業の概要・目的</p> | <p>本地区は、北海道の最東端に位置し、東部はオホーツク海、南部は太平洋に面している。西部から北部に千島火山帯の阿寒・知床山系が連なる南部から東部にかけて広大な波状大地が広がっている。</p> <p>計画の対象とする民有林面積は268,066haで、うち人工林面積が79,009ha（人工林率29%）となっている。また、人工林の樹種別構成は、カラマツが48%、トドマツが33%を占め、齢級別面積は11齢級の9,151haをピークに8～12齢級が50%を占めるなど、本格的な利用期を迎えており、利用可能な資源量の増加が見込まれている。森林資源の効率的な循環利用や多面的機能を総合的かつ高度に発揮させるためには、高齢級間伐の実施や伐採跡地の植栽による適切な保育管理を行う必要がある。</p> <p>本地区では、産出された木材の過半数が管内の製材・チップ工場で加工され、道内や全国で消費されているが、地域材利用促進の取組も積極的に進められており、地域で盛んな酪農業でオガ粉を敷料として利用するほか、木工玩具や学校机への加工など、知育や教育の場にも活用されている。</p> <p>本事業は、森林の有する水源涵養機能や山地保全機能などの公益的機能を発揮するために必要な造林や間伐など森林整備を積極的に推進するとともに、これらを効率的に推進するための路網整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容</p> <p style="margin-left: 40px;">森林整備 35,575 ha</p> <p style="margin-left: 80px;">人工造林、樹下植栽、下刈り、枝打ち、除伐、 保育間伐、間伐、更新伐等</p> <p style="margin-left: 40px;">路網整備 7,730 m</p> <p style="margin-left: 80px;">林道開設</p> <p>・総事業費 13,655,928 千円（税抜き 12,414,480 千円） （平成22年度の評価時点 8,890,440 千円）</p> |
|-----------------|--|

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> | <p>令和4年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価の算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、社会的割引率及びデフレーターの影響によるものであり、特段の変化はない。</p> <p>総便益（B）148,422,322千円（平成22年度の評価時点95,574,576千円※） 総費用（C）31,698,318千円（平成22年度の評価時点17,812,338千円※） 分析結果（B/C）4.68（平成22年度の評価時点5.36※）</p> |
| <p>② 事業効果の発現状況</p> | <p>更新、保育など35,575haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>また、路網開設によって車両が通行可能となり、森林整備事業地までの到達時間の短縮や資材運搬等が容易になった。</p> <p>さらに、森林整備、路網整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。</p> |
| <p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p> | <p>整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理しており、良好な管理状況にある。</p> <p>整備された路網は、草刈りや路面の整備等が行われており、適切に維持・管理されている。</p> |
| <p>④ 事業実施による環境の変化</p> | <p>森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全等の公益的機能及び木材の安定供給等の木材等生産機能が発揮されている。</p> <p>路網開設による野生動植物の生息・生育環境の悪化、溪流の流量の減少などの影響は見受けられない。</p> |
| <p>⑤ 社会経済情勢の変化</p> | <p>林業労働者の減少や高齢化により、林業の現場では効率的で生産性の高い作業システムの導入が求められている中、労働力不足を補うためにUAVやIT技術の活用による資源把握、コンテナ苗や低密度植栽等による業務の効率化を推進するとともに、木育活動等を通じて、広く一般の方へ森林・林業・木材産業への興味や理解を醸成することで、森林所有者による森林施業の意欲が徐々に高まってきており、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上が図られると期待されている。</p> |
| <p>⑥ 今後の課題等</p> | <p>利用期を迎えた森林資源を活用し、持続的な森林経営を実現していく必要があるが、高齢化や後継者不足により森林所有者の森林施業への意欲減退や造林事業の担い手不足であることから、森林施業の集約化や保育作業の省力化など低コストで効率的な作業システムの確立のほか、計画的な森林整備を一層推進する必要がある。</p> <p>また、若者の定着促進のためにも、地域おこし協力隊の活用やインターンシップ、イベントの開催など、地域の取組を推進する必要がある。</p> <p>地元の意見： （北海道） 森林整備事業実施により水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮に寄与している。また、素材生産や木材加工業者等との意見交換を継続し、川上から川下まで一体となった森林の整備と資源の循環利用を進めていく。</p> |

| | |
|-------------|---|
| <p>評価結果</p> | <p>必要性： 間伐等の森林整備を通じて、森林の有する公益的機能の発揮が図られ、地域における水源地や、土地の流出防止等において重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性： 森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所无路網を開設することによりコスト縮減が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性： 適切な森林施業の実施により森林の有する多面的機能の維持・増進に寄与している。また、持続的な森林経営と間伐等の生産性向上に向け、地域が一体となった森林づくりの取組が進められていること等から事業の有効性が認められる。</p> |
|-------------|---|

※平成 22 年度評価時点における数値について、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：北海道

地域(地区)名：^{くしろねむろ}釧路根室

(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評価額 | 備 考 |
|-------------|--|-------------|-----|
| 水源涵養便益 | 洪水防止便益 | 29,520,875 | |
| | 流域貯水便益 | 10,011,450 | |
| | 水質浄化便益 | 41,774,702 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 39,880,177 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 12,937,073 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産経費縮減便益 | 56,517 | |
| | 木材利用増進便益 | 18,545 | |
| | 木材生産確保・増進便益 | 13,852,817 | |
| 森林整備経費縮減等便益 | 造林作業経費縮減便益 | 1,027 | |
| | 森林整備促進便益 | 369,139 | |
| 総 便 益 (B) | | 148,422,322 | |
| 総 費 用 (C) | | 31,698,318 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{148,422,322}{31,698,318} = 4.68$ | | |

森林環境保全整備事業 釧路根室地域（北海道） 概要図

